

# CEFRを用いた 外国語教育方法

まとめのディスカッション

投野由紀夫

# 春学期

- CEFR原文を読み解く
  - 構築の理念や目的の理解
  - 枠組の具体的内容の理解
  - 枠組の活用方法の理解
- CEFRに親しむ
  - 各レベル&スキルの benchmark performance を知る
  - レベル決定の要因の理解
- CEFR-Jの開発手法を学ぶ（概説）
- RLD（参照レベル記述）の方法を学ぶ（各言語の語彙表）

# CEFRの成立の過程を学んだ

- audio-lingual method                      構造主義
- cognitive-code learning method          認知主義
- communicative approach                  コミュニケーション能力
- Socio-cultural theory                      社会文化理論

言語教育理論 ↔ 言語学理論 常に時代の影響を受けてきた

はやりすたりのある言語教育の世界

みなさんは言語を学ぶためにどのような要素が大切だと思うか？

# 言語共通の枠組 CEFR

- CEFR は EU の拡大する言語圏の文脈から生まれてきた。
- 複言語主義と特定の言語に依存しない共通参照枠、というアイデアはユニークである。
- 皆さんはこの通言語での枠組の利用とすることに関して、どのような利点や欠点があると思うか？

## CEFRをあなたの国で使うとすると・・・

- あなたが政府の外国語教育政策を決められる立場であるとする。
- あなたは自分の国の言語政策をどう見るか？
- CEFRを利用するか、しないか？
- 利用するのであればどのようにするか？

## ローカル・レベルでの適用

- あなたが外国語教員で、ある学校で自分の母語や英語（日本語）を教えているとする。
- あなたはCEFRを使ってどのようなことをしてみたいか？
- そのためにはCEFRのどのような資料をどう使ってみたいか？

## 秋学期：RLDデータ処理の具体例

- 代表的な CEFR RLD プロジェクトの紹介
- CEFR準拠語彙表作成の演習
- 多言語ラウンジでのインターンシップ
- RLDからタスク作成の基礎
  - Core Inventory Scenarioの理解

# RLD Project の概観

- Core Inventory
  - English Profile
  - Global Scale of English
- 
- これらのインベントリー作成、プロファイリングの手法に関して、あなただったらどういう方法がいいと思ったか？
  - 資料類を見て、何か足りないと思うものはあったか？



# CEFR-J 準拠語彙表の作成

- 機械翻訳のメリット・デメリットを議論したが、インベントリー作成のために授業で見たような自然言語処理技術が使えるとすると、他にどのようなことが可能性として考えられるか？
- 「人がする作業」と「機械ができる作業」の区別を上手にすることで、言語資料構築を経済的に行える手法を議論しよう

# 実際にインターンシップをしてみても

- 多言語ラウンジのインターンシップを経験して、どのようなことを考えたか？
- インストラクターとして、どのような知識や経験が必要だと思ったか？
- 多言語ラウンジの取組で何かこうしてはどうか、というような要望などはあるか？